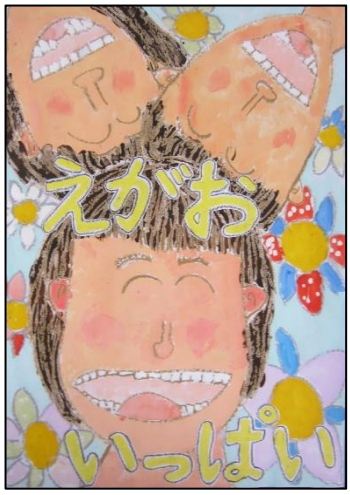
令和３年度　人権尊重の意識を高めるポスター展　特選作品の紹介

今年度は、県内の小学校・中学校・高等学校等から４６，４６９点の応募があり、特選作品５点、優秀作品１５６点が選ばれました。以下、特選作品を紹介します。

【小学校低学年部門】
西予市立明浜小学校
１年　橋本（はしもと）　陽向（ひなた）



【小学校中学年部門】
四国中央市立川之江小学校
３年　岡林（おかばやし）　まどか

【小学校高学年部門】
今治市立波方小学校
６年　田中（たなか）　伶（れい）

【中学校部門】
松野町立松野中学校
３年　岡本（おかもと）　雅久（がく）

【高等学校部門】
愛媛県立丹原高等学校
１年　伊藤（いとう）　恋（れん）

「みんなのえがお　金メダル」

西予市立明浜小学校　１年　橋本　陽向

ぼくのまわりには、かぞくやともだちがたくさんいます。ひとりでいるときはつまらないけど、みんながいると、たのしいことがいっぱいできるのでうれしくなります。

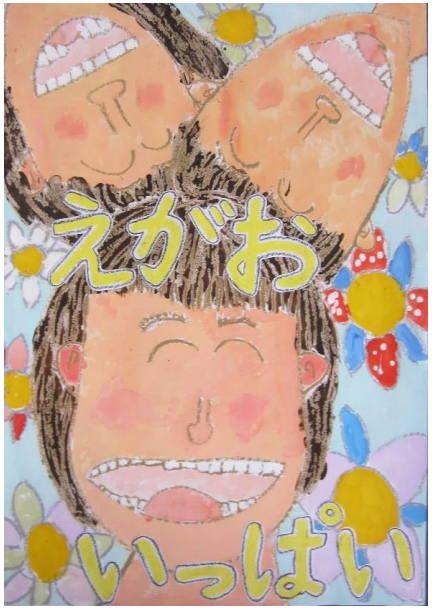
ことしのなつやすみは、とうきょうオリンピックがありました。ぼくは、かぞくみんなでテレビをみながらおうえんしました。せかい中のせんしゅの人がたくさんあつまっていて、かってもまけても、みんななかよしで、えがおでした。おうえんしていたぼくのかぞくもみんな、えがおでした。学校がはじまって、先生やともだちとオリンピックのはなしをしたときもみんな、えがおでした。それをみて、みんなのえがおが、金メダルだとおもいました。ぼくのまわりは、金メダルがいっぱいです。

【審査員　講評】

みんなの笑顔がキラキラと輝いて、仲良く記念写真を撮っているような、楽しいポスターです。一緒に遊んだり、運動したり、勉強したり、どんなときでも一緒に笑い合える友達がいるってうれしいですね。陽向さんの「みんな金メダルだよ」「みんな大好き」という温かい気持ちが、一人一人の表情や明るい色づかいによく表れています。

「えがお　いっぱい」

しこくちゅうおうしりつかわのえしょうがっこう
四国中央市立川之江小学校　３年　岡林まどか



私は、弟と妹の３人兄弟です。たまに悪口を言ったり、おもちゃの取り合いになったりして、けんかをすることがあります。そのときは、いやな気持ちになるけど、少し時間がたつと、だれかが笑顔になり、いつの間にか他の２人も笑っていて、けんかをしたことをわすれて、なかよく遊んでいます。

私は、いやな思いをしている人がいても、周りの人が笑顔になれば、その人も笑顔になり、少しずつ明るい気持ちになると思います。きれいな花を見ると、人は笑顔になります。自分の周りに元気がない人がいたときには、そういう花のように、私も周りの人を笑顔をさかせられるようになりたいです。

【審査員　講評】

画面全体に広がるパステルカラーの柔らかな色調と、中央に顔を寄せ合っている子どもたちの朗らかな笑顔が、見る人をさわやかで優しい気持ちにしてくれるすてきなポスターです。背景の花の模様や色を一つ一つ丁寧に変えているところからも、一人一人がそれぞれの個性を輝かせ、みんなの周りが「えがおいっぱい」になりますように、というまどかさんの願いが伝わってくるようです。

「いろんな色があっていい！！」

今治市立波方小学校　６年　田中　伶

今年は、新型コロナウイルス感染症の影響で、１年延期となっていた東京オリンピック・パラリンピックが開催されました。競技をしている人は、文化や国籍など、様々な違いを認め合い、フェアプレーの精神をもって一生懸命に取り組んでいました。そこには、文化や国籍の壁は一切なく、お互いをたたえ合っている姿にとても感動しました。今でもこの世界では、肌の色が違うから、目の色が違うから、話す言葉が違うからなどを理由に、嫌がらせをしたり仲間外れにしたりする人種差別があります。肌の色や話す言葉が違っていても、それはその人やその国の個性で、違いがあるからこそ、世界が色鮮やかで、彩り豊かなものになります。この絵の絵の具のように、いろいろな色が重なり合って、カラフルな世界になってほしいと思い、この絵を描きました。

【審査員　講評】

多様性を尊重することがよりよい共生社会の実現につながる、というメッセージが、力強く、素直に伝わってきます。いろいろな民族や性、年齢の人々を絵の具の色に例えてそれぞれの個性を表現し、その多様な価値観や文化が混ざり合ったりつながり合ったりすることによって、新たな、すばらしい世界がつくりだされるのだ、という伶さんの思いが、パレットとそこに添えられた筆から感じられます。

「『正しく知る』　差別をなくす第一歩」

松野町立松野中学校　３年　岡本　雅久

私は、人権について学んできて、「知らないことは、人を傷付け、ときには命も奪ってしまうことがある」と強く感じます。人権について友達と一緒に話し合うと、互いを更に知ることができ、気持ちも近づきます。私はそんな時間や空間が好きです。

「正しく知る」ことは、自分自身が大切にしている友達、家族、地域や学校など、すべての人が幸せになることにつながっていると思います。一人ひとりが小さな一歩を歩むことで、みんなで「差別がない社会」を目指したいです。

私と一緒にみんなで、差別をなくす第一歩を踏み出しませんか。

【審査員　講評】

「正しいことを知らないことで、無自覚に新しい差別を生んでしまうかもしれない。みんなで学び、みんなが正しい知識を持つことが、差別解消につながる。」「自分もしっかり学んで、差別をしない大人になりたい。」真っ白なノートの上にレタリングされた力強い文字からは、そんな岡本さんの決意が伝わってきました。

このように「伝わる」ポスターを制作するためには、自分の考えと作品を客観視し、表現を修正し続ける意識が必要ですが、人物を上から捉えた構図、ノートの白さを際立たせる配色、髪の毛やシャツの丁寧な描き込みなどを見ると、岡本さんが、自分の伝えたいことがどうしたら伝わるかをしっかり考え、何度もアイデアスケッチを行って、工夫・改善しながら丁寧に制作していることが分かります。

「伝わる」ポスターであることに加え、作者の制作に対する真摯な意識や態度にとても好感が持てる、特選にふさわしい作品です。

「いっしょじゃないとダメですか？

みんなとちがっちゃダメですか？」

愛媛県立丹原高等学校　１年　伊藤　恋

みんなと一緒じゃなくてもいいじゃない。違ってちゃダメなんて誰が決めたの。一人ひとりの個性をお互いが尊重し認め合う。そんな思いを込めてこのポスターをつくりました。ＳＤＧｓの目標５「ジェンダー平等を実現しよう」を題材に、親しみがもてるよう制服で個性を出しました。背景を白にし、顔に口を描かず、見る人に想像してもらうよう工夫しました。キャッチコピーは自分の気持ちをそのまま文字にしました。「男らしく」「女らしく」。性別に対する偏見が社会にはまだ根付いています。こうした偏見からくる差別をなくしたい。「誰もが自分らしく生きられる社会」。私はそんな社会で生きていきたいです。

みなさんはどうですか？

【審査員　講評】

丹原高校では、令和３年度入学生から制服がリニューアルされ、女子はスカートかスラックスを選択できるようになりました。一人一人の個性や生き方を認める上で意義のある変更であり、生徒や教員のみならず、保護者、地域の方々にとっても、多様性について考えるきっかけとなりました。生徒の皆さんは、この制服を身に付けるたびに、自分の生き方は自分で選んでいいんだよ、大丈夫だよと、背中を押される気持ちになるのではないでしょうか。その丹原高校で学校生活を送っている伊藤さんが、多様性と個性を主題にポスターを制作してくれました。自分の体験や感覚を表現に落とし込み、他者に伝わる作品を作るのは、とても難しいのですが、このポスターは、見る人に問いかけるシンプルな言葉や、思い思いの制服を身にまとった人物を余白の中にうまく配置し、多様性という主題を、説得力をもって伝えることに成功しています。優しい絵柄とともに、私は私でいいんだというメッセージが心に残る優れた作品です。